

(有)栢菅美術料紙研究所

書の魅力を引き出すため 和紙の品質にこだわり続ける

書家の栢菅^{かやすが} 溪雨氏^{けいう}（同社社長・49歳）が、50年前に書道で用いる紙の研究に取り組み自ら開発した紙を商品化。今では全国トップクラスのシェアを占めるまでに。主に書家が使用するこの和紙は墨の濃淡をはっきりと表し、髪の毛ほどの細さの線を自在に表現できる優れた品質を持つ。

独特な技法を用い、染料や顔料での

色付けや、文様を刷り込むほか、金・銀の箔加工などの装飾を施した和紙（料紙）を制作する。

この技術を継承する一人が、写真の村田奈央子さん（25歳）。彼女は破り継ぎの技法で和紙を仕上げる。「技術を間違いなく後世に伝えたい」と努力を惜しまない。



破り継ぎ技法で制作された料紙とそれに書かれた「書」



破り継ぎとは、微妙にゆらいだ曲線で切り取った約7〜20枚程度の紙片を継ぎ合わせて制作した技法のこと（平安時代に創始）。細かい手作業の繰り返しで、一枚仕上がるまでに一カ月かかる。

【会社概要】

設立 昭和40年4月

従業員 37名

所在地 岡山市東区東幸西998

TEL 086-946-18730